

## 『グローバル天理』第9号掲載論文要旨

井上昭夫 「巻頭言 天理大学雅楽部・「敦煌」演奏の歴史的意義」

天理大学雅楽部は、この夏蔵経堂発 見敦煌学誕生百年記念国際学術会議に招請され、莫高窟の正面で雅楽を披露した。千年前の旋律をその場所で復元したことは、シルクロード文化交流史の中でも 特筆されるべきだろう。「裏守護」と見立てられる異文化や他宗教は天理教の教えと繋がっているという点から、シルクロードにこめられた教学的意味は極めて 大きいと言わねばならない。

太田 登・中井精一 「天理教原典とやまとことば（9） 原典と表現法  
[4] 一原因・理由表現【1】」

原典『おふでさき』の原因・理由の表現には、様々なバリエーションが存在する。その分類・検討のためには、近世期以降の史的変遷過程ならびに文法的枠組みの把握が重要であり、天理図書館が所蔵する『狂言六義』および近世末期の資料等をもとに、その大枠について言及した。

笹田勝之 「天理教における悟りの構造について—他宗教との比較を通して—（9） 第一章「知ること」について [4]」

「人格の完成」という教育の目的のためには、「超社会化」、即ち「社会内存在」から「真理内存在」への転換の教育、「幸福に死する宗教の信心」の教育、「絶対の真理」の教育が肝腎である。

堀内みどり 「天理異文化伝道（9）天理教のコンゴ伝道 [8] 一初代会長時代〈1963—1967〉【2】

1963年11月25日、ブラザビルに着いた高井は、翌朝紺谷とノソング宅で朝づとめ。その際ノソングの二人の娘に初めておさづけを取り次ぐ。11月27日、貸間が見つかり移動。さらに12月5日一軒家を借りられることになり、そこを布教拠点とする。

金子 昭 「天理経営学—その歴史・哲学・展望—（9） 思想編 宗教と経済・経営 [3]」

パウロに由来する行動的禁欲の勤労倫理は、ルターの「天職(calling)の概念によって、信者の世俗的生活へと導き入れられ、そこから近代資本主義が発展してくる。本校はこれを論じる際、宗教とスポーツの関係を比喻として用いた。

#### 佐藤孝則 「エコロジーの思想と実践（９） 「エコロジー」の芽生え」

Ellen Swallow は、Ernst Haeckel によって名付けられた「oecologie」の概念を、1892 年に、今日の「環境学」に類似した意味の「エコロジー」として正式に命名し、その普及を図ろうとした。彼女は、19 世紀末に表面化したマサチューセッツ州の公害問題に心をいためていた。彼女は、河川環境の現状を明らかにするため、水質検査に努力を傾けた。また、食物の栄養分析を手がけるなど、体外・体内環境に関わる「循環システム」の研究に尽力した。また、環境汚染を防止するための消費者運動を組織するなど、まさに、彼女はオピニオン・リーダーとして、「エコロジー」思潮の源流を築き上げた。スワロー女史こそが「エコロジー」思想のパイオニアである。

#### 小林正佳 「芸術・癒し・宗教（９）社会がつくる身体、身体がつくる社会」

わたしたちの身体、あるいは動き方の変化は、新たな「国民国家」を支える兵士や工員を求める社会的な要請に応えるものだった。両者とも、江戸時代の農民とは違う身体条件を必要としていたからだ。そしてそのことが、学校制度における体育や音楽の授業の成果として達成された。こうした社会的要請に沿って作りだされた身体や運動と比較することで、民俗舞踊を踊る身体の特質や、そこから導かれる人間関係のあり方を探ることができるだろう。

#### 小滝 透「天理比較神秘論への試み（９） 死の風景」

今回は、宗祖に見る死の形態を中心に比較検討を加えてみた。その影響がきわめて大きいと考えるからである。とりわけ信者は宗祖の死の形を踏襲せんとする故に、この影響は絶大である。右の理由で死の意味を問い直してみた次第である。

#### 金子珠理 「ジェンダー女性学情報（９） ネイティヴのトポス [4] 」

トリン・T・ミンハにおける人類学とネイティブとしての第三世界女性の表象の問題点を指摘する。続いてサーラ・スレーリによるトリンやモハンティ批判を扱い、更にスレーリの背景にあるパキスタンの状況を見る。

#### **塩澤千秋 「脳死・臓器移植—カナダ通信（9）臓器移植と宗教との関係 [2]」**

ユダヤ教では心臓移植が始まり脳死の問題が出始めた早い時期から教義的にこの問題を議論し始めている。そして教義に基づいてある結論を出している。

#### **小椋 博 「宗教・スポーツ・賭け（9） スポーツと賭け—テニスに見る上流階級とブルジョアの戦い— [2]」**

全米テニス選手権大会開催地が1915年に移されるまでの間、社会階級を背景として、新興のビジネス階級と貴族的な上流階級、あるいはテニスの近代化・商業化路線と賭けを含む伝統的スポーツ路線の対立・葛藤の興味深い歴史がそこには存在している。

#### **上杉武夫 「都市の再生に向けて—アメリカ通信（9）ホームレスとアメリカ社会」**

ホームレスはアメリカ社会における大きな都市問題だ。ホームレスと環境問題は、どちらも個人主義と唯物主義という近代社会が蒔いた同じ種に由来している。アメリカの民主社会を作り上げる原動力となったこれらの価値基準が、一方では貧富の差を拡大し、多くのホームレスを生み出しているのだ。また、シングルマザーの問題もホームレスと切り離せない。社会的経済的理由によってシングルマザーが増えつづけ、その結果ホームレスが増えているアメリカ社会では、ホームレスも環境問題も同じ壁に遭遇している。ホームレス増加問題は、国家指導者と一般民衆の双方が解決に向けて取り組まなければならない。